

同窓会会報

昭和40年6月1日
茨城県 東茨城郡
内原町 豊淵
発行所
豊淵学園同窓会
印刷所
山田 印刷所
TEL 213 480-8096

豊淵学園創立二〇周年

記念事業推進の経過

同窓会長 萩原 耕

母校豊淵学園の創立二〇周年記念事業については、去る一月二〇日付で趣意書をもって、同窓各位に絶大な御協力をお願いしたところ、さっそく、一部の方々から豊淵学園会館建設資金や、二〇年史発行費が寄せられ、また、敬励の便りも相繼いで私達執行部としまして感謝に耐えません。

この機会にその後の事業推進の経過をお知らせすると共に、全国同窓会員の御協力をお願いしたいと思います。

さて、執行部にかいては、趣意書をもつて同窓各位に呼びかけると同時にそれと併行して、記念事業を如何にして推進するかを、豊淵学園園及び農林教育協会と再三協議し、実施案を検討してまいりました。とく

現在の明確になつた事業概要は次のとおりとなっております。

- 1 記念会館建設並びに整備
(豊淵学園会館として本会提案
研修室、実験研究室、資料室、備
備室などを包含する施設)
鉄筋コンクリート二階建
総工費三、〇〇〇万円
- 2 豊淵学園二〇年史の発行
予定内容
(1) 沿革史
(2) 教育の理念とその実践
(3) 学生生活
(4) 農場の運営とその実践
(5) 学園の対外的な教育活動
(6) 卒業生の組織と活動
一部五〇〇円、一、〇〇〇部発行
3 記念式典(昭和四〇年十月十六
日十七日)
内外の関係者、同窓会員をはじめ
め来賓多数を招待して挙行する。
永年勤続者を表彰する。
4 記念植樹
他に同窓会としては、組織活動の強
化、同窓会大会の開催を行なう。
以上は記念事業のあらましですが、
何といつても記念会館建設は最大の
難事業であり、基金募集は経済界の
不況とも重なつて、当初の予想より
もはるかに困難な状態にあります。
その第一点は、農林省には建設設
費の計上を要請しているが、その実

現もきわめてむづかしい。その上さらに要請することは出来ないし、また建設の要請を会館建設の要請に切り換えることもできない。農林省からは一般計上費の他に毎年数百万円の臨時費の補助を受けているが(今年度は女子寮建設)これすら維持すること一杯である。第二点は農協系統団体からも年々多額の計上費の援助を受けているので、その他に多額の特別寄付を受けることは困難といつた理由です。

そこですでに趣意書にかいても明らかに申し上げたとおり、このように困難な事態を克服し、多年の私達の宿願である会館建設を実現するためには、同窓の熱意を、具体的に基金によって現わし、それによって強く、広く内外に呼びかけることが、どうしても必要であります。基金募集については、全国二、〇〇〇名の全会員の協力を心からお願ひします。幸いにして現在までに基金を寄せられ九会員各位は、いづれも当初の目標、すなわち一〇五期生二〇〇〇円以上、六〇十期生一、五〇〇円以上、十一〇十五期生一、〇〇〇円以上、十六〇二十期生五〇〇円以上の金額を上廻つておられますし、また、茨城県支部にかいては、去る五月二十九日に水戸において支部大会を開催し、県内在任全会員に呼びかけ目標の完全達成を

2
月号

議決するなど急速に盛り上がりつつあり、私達執行部としても大いに心強く思っています。重ねて、会員各位の御協力をお願いすると共に、一月一六―一七日の記念式典に参加されることを切望して止みません。

鯉淵学園二十周年記念事業と学園の発展の

ために、協会理事各位に要望書を提出

昨秋の第六回同窓会大会以来、しばしば常任委員会を開き、二十周年記念事業を中心に協議を重ねて参りました。特に母校の発展には農民教育協会の理事各位にお願いしなければならぬ面が非常に多く、三月九日には協公理事池田事務局長と会談、三月十三日には緊急常任委員会を開いて次のような要望書を提出しました。鞍田学園長とは常任委員会の度ごとに懇談の機会をつくっていただき、四月一五日には学園教職員との懇談も致しました。

記

鯉淵学園二十周年記念事業について

一 鯉淵学園会館(仮称)建設運動の展開

同窓会として、別紙趣意書により、募金運動をはじめましたが、あとに述べる建物施設の充実についでに要望のとおり、学園の中心の建物を建設する。

二 学園二十年史の刊行

学園の沿革、教育の理念とその実践、学園の対外的な教育活動、農場の運営とその変遷、卒業生の組織とその活動などを収録し、関係者への寄贈二千部、その他で一千五百部を発行する。

三 二十周年記念式典の挙行

学園において十月十六日挙行することとし、協会を通し関係者各位の御出席をお願いする。

四 後援会組織の育成

同窓会を中心に協会理事、関係者各位の御苦勞を煩わし、各県単位に結成する。

一 教育課程の拡充

これからの学園の運営について、学園の教育方針にのっとり、教育目標を達成するため、次のことき体制を確立する。

イ 現在の農村と農業の要求から、単に農村の中堅幹部養成といふことのみではすまされなくなっていると判断される。すなわち、

自営農民としても、自ら農業の経営者としても、自ら農業の経営管理を行なうる資質を修得することが必要であり、また普及員その他も大学4年課程を卒業したものを基準にしているので、学園における教育は、これらに対応したものとすべきである。

このことから、現在の本科課程を充実することはいかに及ばず、さらに高度の教育内容をもつ大学後期課程を新設して、学園の教育全体を充実向上させていきたいと思います。

経営伝習農場等学園外教育コースからの連けいあるコースを設ける。

海外留学生等受入れるコースを設ける。

二 教授陣容の強化とせき学教授の招へい

東畑精一、大槻正男、東畑四郎、盛永俊太郎、小倉武一各理事方も鯉淵学園教授として教育に参加して戴きたい。

三 学生奨学金の増加

現在の学園の施設は老朽化し、粗末なものであるため、これら建物施設の充実をはかることが必要であるので、これらを総合的に収容する学園会館を建設し、学園のこれからの発展をはかる。

四 学園の施設拡充と環境の整備

この会館は、教室、研究室、通信教育教室、普及事業の中央的農村青年研修室(館)、農業展示室、応接室、会議室、講堂、学園事務室、学生自治会、同窓会事務局、(後援会事務局を含む)などを収容する。

この会館は、延六〇〇坪程度を必要とすると見込まれる。この建設については、農林省の農村青年研修館、普及員通信教育費等の援助をうける。

会館を中心として、建物、道路、樹木、庭園等を総合的に計画し整備する。

学生寮、スクーリング学生寮、教職員、外来者用の宿舍の完備

を設ける。

を設ける。

(昭和40年3月15日付)

鯉淵学園二十周年を迎えるにあたり、二十周年記念事業と、これからの発展について、学園卒業生として

をはかる。
五 旧酪農実験場を農林省より譲渡を受け、会館を中心とした計画をより完全なものとする。

六 同窓会代表一名を協会常務理事とする。

七 初代学園長小出先生の十三回忌に旧神社跡に礎の碑(仮称)をたて、小出先生はじめ、学園関係物故者の慰霊を行なう。

同窓会長 萩原耕 団
農民教育協会理事 各名位

学園だより

昭和四十年年度

応募者・入学者状況

今年度の学生募集は、お陰様で前年度よりかなりの増加をみ、文書選考の結果、次表のように多数の新入生を迎えました。二年生七一名を加えて学生総数は久しぶりに二百名を越し、いつも後方がガラ空きであった第一教室はいっぱい、学生諸君からマイクの取付を要求される程です。机、椅子をはじめ実験実習の器具機材の不足など、関係者一同嬉しい悲鳴をあげておりますが、毎年こんな悲鳴が開かれるより、今後とも皆さん

の積極的な御協力をお願い致します。

科 別 区 分	本 科			研 究 科	選 料	特 別 選 料	合 計	
	農 業 科	農 協 科	農 村 生 活 科					
応募者数	97	43	31	171	3	8	13	195
入学者数	69	31	22	122	2	8	11	143

農村生活科実習室の新設なる

昨秋、図書館の斜め後(第五教室の後)に鉄骨、ブロック、白壁の建築が誕生しました。被服(兼工作)、家庭管理(兼保健衛生・育児)実習室の七七坪がそれです。中身も次第に整えつゝあります。出入する後輩女子学生の明るい表情をご想像下さい。

女子寮の新築計画すゝむ

今年度は女子寮が新築されることになり、近かく着工する運びになつております。約百坪、七百万円の予算

算ですが、出来る限りよい女子寮をと、関係者一同苦心しておられます。秋の記念祝賀会には新築祝賀も併せたいものであります。

園芸農場にスプリン グライ施設完成

地下水の高い園芸農場でも夏の乾燥期には毎年乾燥に依る減収が、果菜類、果樹、普通作を通じ見られていました。昨年八月に、梨、ブドウ園と裸地八〇aを対象として完成し早速梨の後期肥大期の灌水に、陸稲果菜類、人参の灌水に威力を発揮しました。

酪農場に搾乳舎増築さる

乳牛頭数も更に増加して、いまや五十数頭になりました。本年二月末には十数頭収容の開放牛舎ができて、乳牛達も手狭になつた牛舎から開放されて、質の良い牧草を飽食し、ミルクの生産に一層精出していきます。

学園の人事移動

採用 佐藤 堯 園芸農場勤務(三
九年四月一日付)
左田本巨 講師から嘱託教授
に(主な担当科目・
植物生理・作物・三
九年十一月一日付)
退職 教務課・徳原登助 嘱託教授

から講師に(主な担当科目・農機具・三
九年五月一日付)
退職 事務課・河合(丸川)きく江
(三九年八月三十日付)
園芸農場・小川喜久雄(三九
年十月三十日付)

支部だより

富山県支部会

一月二九日、富山駅前旅館広間を会場に、支部長・高田亨(一期)氏をはじめ、吉野賢(2)、小川高稿(11)、竹内敬俊(11)、池田啓治(15)、深山一雄(16)、溝口哲栄(17)、松島徹雄(18)、柳田貞子(19)、田屋豊作(19)、近藤健嗣(19)、学園から北陸出張中の西村及び学生二名、富山の文字通り山海の珍味をほおばりながら話題はつきず、延々六時間。各氏のご活躍を紹介するスペースの得られないのは残念至極であります。磯波市では水野嘉孝(5)氏宅に竹島昭三(7)、森本三雄(6)、辻宗一(9)、永田清(10)の諸氏、金沢市では森健二氏をはじめ本島征彦(19)、真田進(16)、西向詞郎(13)、宮子(14)夫妻と坊ちゃん、魚津市では溝口哲栄(17)・笙子(17)夫妻の皆

さん。富山市では助田栄一(14)氏にもお目にかかりました。行く先々、任んとうにお世話様になり、ご活躍の様子を目のあたりにみて嬉しい限りでありました(事務局)。

同窓会茨城県支部大会 の開催結果について

茨城県支部長 石井隆夫

茨城県支部大会は「鯉淵学園創立二十周年記念事業に対して支部としてどう臨むか」、「支部組織の確立と活動の強化をどうするか」という二つの議題を中心として、去る五月二十九日に、水戸において開催いたしました。

折柄農繁期に当り、出席が困難な同窓も多かつたわけですが、幸いにして五十余名の出席者を得、また来賓として鞍田学園長をお迎えして盛大に開催することが出来ました。そして次の二項を満場一致決議いたしました。

二〇周年記念事業に関する決議

- 1 記念会館(学園会館)建設基金について、茨城支部は三〇万円を基本目標とし、それを完遂する。(全国三〇〇万円としてその一割)
 - 2 一〇月一六、一七日の記念大会には、全会員が参加するより積極的な呼びかけを行なり。
- なお、新役員は次のとおりです。

支部長 石井隆夫(四期)
副支部長 小泉信吉(四期)

以上支部大会のあらましを述べましたが、各県支部におかれましても、ぜひ積極的に活動を展開し、二〇周年記念事業の実況に努力されることをお願いいたします。

鯉淵のおもいで

北海道 佐藤 存(四期)

◇終日実習

年に二回のこれが始まると、馬小屋式の長い寒は飯場になった。物の極度に不足していた昭和二十一年頃だつたから、大方の学生は裸でハダシ、つぎの当った軍隊メボンで悲しそうに北園場に向つたものだ。重い開墾鍬が肩のしかり、時々故郷を想い出してはセンチメンタルな感慨にふけて、何の因果かと考えた。一ヶ月以上続く実習は、今となつては、かけがえのない貴重な体験として私の中に生きているのだ。

空腹に耐えかねて、いも畑へ行つて小さなさつまいもを採り掘りしたり、栄養係をゴマカして少量の米を預けてもらつたり、食うことだけを考えた毎日であつた。だから寮は、夜になると煮たきの煙が、おそくまで眠い目にしみたものだつた。ひとりで隠れて食う者は居なかつた。

◇さんまの頭

食堂では、副食にさんまを食わせてもらつた。主食は、いもかいもがゆ。

ある日、M君が赤い顔をして食堂から帰つてきた。足もとも少しふらついている。こりやてつきり濁り酒などタンなんで来たものと思ひ、鋭く追求した。その余恵にあづかる為である。ロレッツも甚だあやしい。酒ではなく、さんまの頭だったのである。

みんなは、さんまの身を食ひ、あたまは食堂の隅にある桶の中に入れておいたのだが、彼は余程腹が空いていたらしく、ひとの分まであたまを食つたのだ。約十個。彼は、あわれジンマシンにかかつたのであつた。酒で酔つたのとあまり違わんぞと、彼は云つた。

◇収穫祭

秋のとり入れが終ると(秋の終日実習の終り)恒例の収穫祭が、農場本部の広場で催される。何て云つたつて嬉しい日だつたナ。この一日は、長い長い長い実習が終り、秋の空は青く澄んでいた。どんなに天気がよくとも遊んでいられる一日だつた。山盛りの銀めしに、甘酒、紅白のまんじゅう、そして食ひ切れない程の豚汁。しかも豚汁は早く取りにゆく

と脂身の多い肉が一パイ浮いていた。あまりおそくなる、いもと葉っぱしか残っていない。その辺の加減がとでも難しかった。

豚といえ、食堂の裏で飼つていたデカイのが居た。小屋の上はTOILETになつていて、上から投下すると豚はそれを待つていて忽ち食つてしまつた。よく肥えていたが、収穫祭の近くになるとコツ然として姿を消してしまつた。あの豚はどこへ行つたのかな。

◇たばこの煙

たばこは配給だつたから、未成年者には割当てはなかつた。殆どは「のぞみ」と云う、自分で巻いてのむやつだ。英和辞典のインデアンペーパーが随分煙になつてしまつた。巻き方が悪いと、途中から空気が入つて、吸つてもすぐ火が消えた。だから破黄マツチを擦つては、あの破黄の鼻をさすような臭いと甘いような渋いような味を味わつたものだつた。エンピツの芯とこよりとで、電灯のソケットにショウトさせて火種を作つた発明家が居たが、試験前夜の寮を停電させて、大騒ぎをまき起した犯人は判らなかつた。みんながやつていたんですネ。

寮でたばこをのむと、その煙は廊下を伝つて流れた。すぐに友人が集つてきた。一友、遠方より来たる。

楽しからずや」。一本のたばこは、再び持主の口に戻ってくることは無いのである。たばこは、あたかも聖火リレーの如く、幸せを多くの友人に与えた。

◇弁論大会

九州のD君が、九州の標準語でさわやかにどなる。千葉のK君は、ガマの油売り然と物凄く早口でまくし立てる。岩手のC君は、ゆっくりゆっくり語りかける(もつとも、早口でやられたら理解できない)。ヤジの王様は青森のK君。青森の言葉は抑揚が至極たのしい。彼の、肺腑をえぐるヤジは、万場に笑いを巻きおこした。彼は、さぞかし張り合いがなかったらう。

◇研修生

我々が一年生として入学したとき、各寮に研修生がいた。世話役であった。そのうち、居なくなった。我々一人前になつたからではない。追い出したわけでもない。

◇ストライキ

当時、学生ストとしては珍らしかった。一ヶ月程の間、学制問題で理事者と交渉した。真剣だった。勉強以上に勉強になった。

◇だんす・ばあてい

藪ぞうりを履いて、講堂に硝酸を撒いて踊った。彼女を見付けてうまくやつていた人がいた。うらやまし

くて仕方がなかつた。

◇学問

独学で卒業しました。(農協連合会勤務)

京都 大山 浪 雄(三期)

前略、お元気でご精励のことと速察申しあげます。

ことに二〇周年記念事業の推進もあり、大へんお忙しいことと存じあげます。

さて、四月四日付の「和田文雄」

君よりの書面を拝読しました。用件は記念事業関連として学園に木を植

えたいので、これ用の苗木を送って欲しいとのこと。希望はユーカリ等ですが、学園地方では耐寒性がなくて育つ見込みはありません。それで、他に適当な種類を物色中ですが、植栽時期の四月現在で手持ちが限られていて、期待通りの樹種は集りかねます。しかし、手近なところで物色した結果、マツ、スギを主体にしたものを、近教授あてお送りいたします。マツ、スギといえは在来のありふれた樹種ですが、年輪が刻まれる歴史を物語ってくれるので、悪くないと思つています。並木用に使つて下さい。これ以外に適当な樹種あるものを含めておきます。当地は貴地よりも多少暖い関係で出芽間

近で定植時期が遅れていますので、この点もご了承下さい。そして、ともかく、さらに必要のようでしたら計画的に来春送付したいと予定し、念じています。

ここ一週間、学会やら転宅やらで留守にし、ご返事おくれて申しわけありません。悪しからず。

では、よろしくお願い申しあげます。

いづれ、また、お便りします。皆様によりしくお伝え下さい。(林業試験場関西支場勤務)

事務局だより

名簿整理についてのお願

昨年度の同窓会大会において、今年度の事業として決定されました同窓会々員名簿の発行のために、事務局では春以来その原簿の整理に当つております。

名簿整理については、昨年来各界支部にその協力をお願いしてきたのですが、協力を得たのは数支部にすぎず、事務局では非常に苦勞しております。これまでのところ先生方に寄せられた年賀状や日頃の学園、同窓会宛の手紙でようやく住所不明者一一一名、職業又は勤務先不明者三〇七名まで減らすことができました。

しかし、こうして整理したはずの原稿も去る五月二十九日の茨城県支部大会においてたちまち十数名の訂正を受ける始末。事務局ではこの名簿の整理にすっかり自信をなくしております。

会員相互の利益、同窓会の発展のために、もう一度会員諸氏の御協力を切にお願い致します。

二年前以降住所や職業又は勤務先を変更した方、ならびに変更した人を御存じの方はその人の新しい住所および職業又は勤務先を七月末日までに事務局へお知らせ下さい。

後記住所不明者の新住所ならびに職業又は勤務先不明者について御存じの方は七月末日までに事務局宛お知らせ下さい。

今春卒業された二十期生の方は同封のハガキを記入の上七月末日までに必ず返送下さい。

名簿の予約募集

同窓会々員名簿は十月一日発行の予定で以上の仕事を進めておりますが、一部三〇〇円かゝる見込です。で会費年二〇〇円では無償で配布することができません。したがって名簿は予約を受けて印刷することにしております。希望者は三〇〇円を添えて八月末日までに御申込下さい。

住所不明者

一期 宮脇淳、古瀬敏雄、仁木彌、大谷八郎、青木芳雄、西能忠二、日向道治

二期 工藤泰治、北島隆、北山勲、高木敏二、柴山(後藤)善吉、阿部武夫、宮川英一、遠藤三四治、林(霜田)志郎、貝原正和、坂口胖、船戸智二、山下國長、原本貞雄

三期 杉山嘉一、安達和夫、安田善彦、上田貞雄、鬼武弘芳、岩岡三郎、小島昇治、野崎孜、櫻葉(杉山)益保、芝恒蔵、佐伯得三、森田日出男、稲葉昭、古賀邦亮、今福正、坂田秀雄、原口義一

四期 根本信行、川村栄吉、林徳彦、成定良一、岩上康徳、浜中寿一、甲斐希俊、野村和夫、中西慎

五期 水元照男

六期 田中秀一、古川好男、大島重美、

七期 養毛邦夫、黒木勉、藤井正雄、須藤桂吾、南山隆生、川原義一郎

八期 山本守、藤田俊邦、内山重徳

九期 岡一郎、渡辺敏夫、畑野(鈴木)宮子、叫野進介、木村了祐、佐藤正夫、野口良造、永田耕一、大津一己、堂前信也、柳寿夫、寺田敏

雄、工藤忠

十一期 藤村純一郎、川添杉男、齊藤雅雄、井坂満、福田収、村松寿雄、西山茂、三枝忠夫

十二期 山口九州男、小林倫子、正木明、

十三期 近見助一、池田勝夫、大崎忠夫、三枝忠志

十四期 田中茂、宮内博文、加藤謙次、高橋勢一、中村幸雄

十五期 阿部義春、西村

十六期 齊藤裕夫、堤絃一

十七期 安掛精守

十八期 東善明、市橋敏孝

十九期 井上登

二十期 折戸豊

二十一期 高橋肇、六平仁、高森文男、小川孝一、綱野安幸、山本幸広

二十二期 三浦清登、宇都宮正行、堀谷勝正、大山(徳見)正伸、田尾操

職業又は勤務先不明者

一期 大谷八郎、青木芳雄、仁木彌、古瀬敏雄、山田茂、牧村保雄、小林悦造、小林英男、田辺耕治、杉山四郎、日向道治、引中泰彦、坂本太郎、大西正章、別府修、高内正美、宮脇(信國)淳

二期 石塚(海藤)忠、花輪平、矢田部実、柴山善吉、石山真、並木正、高木敏二、宮川英一、遠藤三四

治、船戸智二、丸山昭一、深町(村松)巨、林(霜田)志郎、坂口胖、松尾了貫、加藤昭、北村康祐、谷口三喜夫、藤本(馬場)末男、神垣数量、加藤春美、池田義行、山下國長

辻勝、正木(宮本)浩二、河合寅男、井上均、中太(田中)和雄、原本夏雄、山根博、竹内克、大久保博、寺川和好、福田民六、田中重信、井口貞夫

三期 大島健一、川原富夫、安田善彦、門倉三郎、門倉三男、上田貞雄、宮路三郎、鬼武弘芳、岩岡三郎

小島昇治、田村穂、櫻葉(杉山)益保、松永彦三郎、奥田昇、山岡忠雄、上田久、野村昭吉、芝恒蔵、奥野嶽武岡勇、瀧美(佐々木)照男、上来敏夫、鎌倉功、堀端(吉)後清、石原直、佐伯得三、森田日出男、山本英治、朝香和雄、松下一、山本茂、伊藤政美、安達和夫、橋本定夫、上尾由憲、村田芳郎、橋口俊視、古賀邦亮、土谷(末松)徳寿、今福正、坂口秀雄、原口義一

四期 川村栄吉、佐藤昭司、山本善夫、奥山隆治、林徳彦、成定良一、岩上康徳、中田一光、橋本(西岡)利也、養田昭一、中村正貴、桑名健一、

五期 田口俊、坂本八百枝、中村利男、鳥川功

六期 鈴木重雄、阿部清太郎、小

野寺忠夫、山中明、柳浦数三、小原好則、水元照男、山浦享介

七期 今野幸益、関照夫、山崎道夫、渡辺春夫、古川好男、田中(井端)秀一、大島重美、坂本義孝、高原正雄、村上龜床、本釘幸、下田晃

八期 田沢久義、伊丹誠、小林保繁、丸文明、高橋光雄、藤原源吉、中島林、高山安三郎、柳野次男、藤井正雄、村上恒人、須藤桂吾、国藤貢造、熊谷吉郎、南山隆生、中馬(森田)和一、佐藤明道、高野信暁、江崎光守、阿 知一雄、瀬原稜威男、原田広司、藤井辰生、養毛邦夫

九期 小萩沢利美、阿部豊、桜井四良、小泉尚久、木幡七郎、岩崎聰、桜井日吉、佐藤重昌、山下重治、丹羽幸雄、渋谷正彦、寺町光雄、別所松夫、岡田郎、長尾友喜、山本守、田中貞雄、益田正雄、元寛、田中敏雄、岡田敏彦、藤田司郎、篠原常夫、佐々邦夫、前田義正、山之内忠男、内山重徳、尾口武志、山口義信

十期 荒木哲雄、中野文子、叫野進介、原田耕作、栗野紀子、大滝恒武、甲高博雄、羽生(小島)軍司、木村了祐、小崎博、梅原進、梅原(北条)陽子、竹内弘、小林二郎吉、寺田敏雄、藤巻俊彦、松岡宏、浦賀武通、佐藤正夫、雨宮善陽、山田作治、北岸外喜男、渡辺敏夫、外山昌

作、大前邦民、下川清己、野口良造、吉田義己、宅間伸幸、永田耕一、山田洋一、榑寿夫、堂前信也

十一期 佐藤共成、斎藤十一、井坂満、島村(栗原)多恵、塚越基雄、川添杉男、福田収、小林吉三郎、山口改義、村松寿雄、香西一利、中野重夫、上木義彦、三枝忠志

十二期 横館(荒井)睦子、小島範雄、奥田昇、上田(中西)信子、正木明、山口九州男、小林倫子、十三期 大崎忠夫、伊藤明男、堀

出正平、伊藤都夫、桑田誠、冰原俊則、杉村栄治、興梠善彦、小野三郎、藤崎忠男

十四期 富樫元一、小林誠男、水口普、田中茂、楡垣士郎、稻葉泰士、中村幸雄、小野寺みき、島山つよみ、加藤謙次、西田貞夫、飯塚忠明、和田武久

十五期 田崎求、阿部義春、益子徹、青木栄吉、西沢政剛、大多和凱介、岩井勝典、野村徹志、金森弘治、白石幸雄、山田正直、前田和幸、瀧留藤男、鎌田太郎、上野千恵三、宮平林一郎、鷹田道之助、小沢政義、十六期 飯坂功、吉田健治、高橋紀三男、宮内(矢幡)幸司、金子貞三、小西英彦、瀬尾好美

十七期 河部幸、鈴木俊郎、堤紘
十八期

研究科 田中幸、赤井幸一、有本(杉下)良一、井上登、二宮省三、今福正、中村幸雄

選科 熊谷善明、折戸豊、豊崎道子、帯川伊千広
実科 小川孝一、網野安幸、山本幸広、三浦清登、宇都宮正行、梶谷勝正、田尾操、大山(徳見)正伸

二十期生(三十九年度卒業)の入会式

三月一日、萩原会長、和田副会長の出席を得て、本科七七名、選科五名、特別選科一四名、合計九六名の新入会員を迎え入れました。各支部宛いち早くご連絡すべきところ、所統支部の明かにならぬ若干名もあつていまだにどここうつております。目下全会員の名簿を整理中ですので、新名簿に組入れるようすゝめており、致します。

会員の死亡

次の方々は前回の名簿発行後に死亡通知をいただきました。前途有為の友を失って遺憾の極みであり、謹んでご冥福を祈っております。

高橋義人(1期・東京都)、塚本雅一(4期・徳島県)、川崎

鉄志(4期・東京都)、三木康徳(9期・広島県)、野中安弘(11期・佐賀県)、本多忠行(16期・千葉県)

尚、川崎鉄志氏は癌と闘つて三年、照子夫人の涙ぐましいご看病の甲斐もなく、去る五月に永眠されました。目下、鯉淵学園関係の知友、全国農協中央会の同僚諸氏を中心になつて遺児、浩君(小学二年)の育英資金を募る計画がすゝめられております。近く趣意書が参ると思ひますので、何とぞあたゝかいご協力をたまわりますようお願い致します。募金目標百万円、一口五百円、送金先は東京都千代田区大手町一の一五 全国農業協同組合中央会 総務部長 戸川英胤殿。期限七月末日。万一手もがいで趣意書が参りませぬ時は、同窓会事務局にお問合せ下さい。

学園創立二十周年記念事業資金応募状況報告

(第一回・五月三十一日現在)
北海道・中田洋(13期・二〇〇〇円) ※印は記念誌代金五〇〇円を含む。以下同じ。沖田清次(11・一五〇〇・※)、但木收久(11・一五〇〇・※)、松崎郁子(18・五〇〇〇・※)、松崎郁子(18・五〇〇〇・※)、荒川仁(16・一〇〇〇〇)、伊藤政義(3・二五〇〇〇)、山根広海(7・一五〇〇〇)、小野武(19・五〇〇〇)、小関信子(14・五〇〇〇)、赤石和郎

(19・五〇〇〇)、山田明人(5・二〇〇〇〇)、走出栄八(16・五〇〇〇)、竹田文夫(19・五〇〇〇)、中興春夫(6・一〇〇〇〇)、佐相正敏(6研・一〇〇〇〇)、佐藤存(4・一〇〇〇〇)、岩手・岩淵齊(15・一五〇〇〇・※)、秋田・小嶋宏(15・一〇〇〇〇)、深沢慶吉(15・一五〇〇〇・※)、軽部序治(8・二一〇〇〇・※)、須藤雅道(11・一五〇〇〇・※)、堀越亮二(13・一三〇〇〇)、茨城・加藤紀一郎(18・一〇〇〇〇)、梅崎孝臣(13・一〇〇〇〇)、益子麒一(14・一五〇〇〇・※)、大島武男(9・一五〇〇〇)、立見健祐(7・一五〇〇〇)、増山輝雄(13・一五〇〇〇・※)、真野量次(4・三一〇〇〇・※)、菊地貞三(15・一〇〇〇〇)、佐々木諭(16・五〇〇〇〇)、佐々木淑子(16・五〇〇〇〇)、須田哲也(16・五〇〇〇〇)、堀江茂邦(特別選科1期・三十九年度卒業・五〇〇〇)、西野克己(同上・五〇〇〇)、笹沼達亮(同上・五〇〇〇)、高俊男(同上・五〇〇〇)、吉井敏子(同上・五〇〇〇)、田島信裕(同上・五〇〇〇)、富田幹雄(同上・五〇〇〇)、中川ひろ子(同上・五〇〇〇)、加藤洋明(同上・五〇〇〇)、松本定雄(14・一〇〇〇〇)、群馬・剣持澄夫(12・一五〇〇〇・※)、埼玉・藤城久子(17・一〇〇〇〇・※)、遼山・石塚祥治(3・三五〇〇・※)、石塚祥治

(2・三〇〇〇・*)、東京・柴田
十四生(8・三〇〇〇・*)、元水
真澄(15・七〇〇〇・*)、遠藤つる子
(8・二一〇〇・*)、小口芳昭(2
・三〇〇〇・*)、池原秀明(19・
一〇〇〇〇・*)、小池喜張(8・八
〇〇〇・*)、河村研二(16・五〇
〇〇・*)、長野・栗林郁人(14・一五〇
〇・*)、小松亨(10・二五〇〇・
*)、静岡・高島稔(8・二三〇〇
・*)、愛知・鈴木光春(7・二〇
〇〇・*)、渡辺悦次郎(3・二五
〇〇・*)、奈良・九鬼正信(4・
三〇〇〇・*)、米田敬子(16・五
〇〇〇・*)、兵庫・長峰年正(19・一〇
〇〇・*)、広島・谷口宏道(8・
二〇〇〇・*)、桑原道二(12・一
五〇〇・*)、鳥取・中村剛二(4
・二五〇〇・*)、島根・加藤美保
子(17・五〇〇〇・*)、愛媛・大西正章
(1・三三〇〇・*)、福岡・羽深
一忠(1・三五〇〇・*)、佐賀・
加茂孝夫(11・一五〇〇・*)、

年度入学生一同・一三一名(六五
五〇〇)、合計金額・一七〇四〇〇
円(記念誌代一六五〇〇円を含む)。

学園創立二十周年記念 植樹用樹苗の寄贈

京都・大山浪雄(3期・スギ1一
〇〇本、クロマツ1五〇本、テーダ
マン1八本、アメリカ楓1五本、台

薄楓1三十本)、茨城・増山謙雄(13期・メタセコイヤ1一本)

振替用紙の利用について

今河思い切つて「料金加入者負担」の振替用紙を作成同封しました。すなわち、払込み料金は事務局で負担することになります。乏しい事務局財政をお察し下さって、会費、名簿代、会館建設基金、二十周年史代など、極力一括してご送付下さるようお願い致します。

石橋幸雄先生の還暦祝賀会

学園の創立以来、まさしく二十年、学園教授としてひたすら私どもを教導下さいました石橋先生には、近く還暦をお迎えになられます。目下、農業経営特研生が祝賀会を計画しておりますが、特研生たらずとも何かとお世話になりました方が多かるうと思われまふ。この際、日頃のご恩の一端に報い、併せて先生の益々ご健康であられますように念じつゝ、先生の還暦をお祝い申し上げたいと思ひます。七月末日までに事務局までお申越下されば、まとめて先生にお取次ぎ致します。

寮歌 作曲

小林一郎先生に記念品を贈る

第六回同窓大会の決定に従つて、

過般、小林一郎先生(畜産学担当の元教授・昭和二十一年ご退職)を内原町内原のお宅にお尋ねして、同窓会から記念品を贈呈しました。先生には、数年前から病いのためお身体がご不自由でおられましたが、近頃では大分よくなられて、お孫さんとのひと時や時折の散歩を楽しんでおられます。

なお寮歌「作詞」の柴山(旧・黒川)善吉(2期・栃木県)氏の住所をご存知の方は大至急お知らせ下さい。

第一期生会の準備すゝむ

昭和三五年秋、第五期生の十年会を皮切りに、翌三十六年には六期生を、次いで七期生会(これは名古屋・市で開催)、八期生会は都合によつて実現しませんでした。昨秋は九期生会と相違ひてあります。今年は十期生会の年に当りますが、どうか盛大な集いをご計画下さるよう、十期生有志一同のお骨折りをお願い致します。

一方、一昔古いところで、一期生会が計画されております。一期生で前同窓会々長・松村修司氏が中心になつて、今秋十月十六、十七日の二十周年記念祝賀会の前後を期して、着々と諸準備をすゝめておられます。どうか一期生の皆さんには万障お繰

合せの上、是非ご参集下さるよう、楽しみにお待ちしております。二期・三期・四期と相續いて参りますので、重ねてよろしくお願い致します。

後期II五月早々に発行したいと思つておりました会報も、おくれおくれで今になつてしまいました。前号以来、多数の皆さんから記念事業資金や会費の送金などと共に、励みや問合せのお便りをいただき、まことに有難うございました。極力ご返信するよう心がけましたものゝ、及ばず、不十分で申訳ありません。又手紙などを通して、皆さんの近況を紙面に紹介したいと思ひながら、たまたまの発行でつい事務的な記事が多くなつて申訳ありません。

佐藤存兄からは、ご多用のところ玉稿をいただき、又、大山浪雄兄の手紙は事務局一存で掲載しましたので御海容の程お願い致します。今後とも、近況、ご意見などは是非お寄せ下さるようお待ちしております。事務局の手不足で何かと至らずご迷惑をおかけしておりますが、皆さん、あたゝかい御支援にすがりながら沿路を開らいて参りたいと思つております。次号は九月上旬の予定です。

(事務局)